今日の観察ポイント

ニリンソウとその鑑別

　ニリンソウはキンポウゲ科で、今日みられるイチゲの仲間を含めて多くの種類があります。イチゲの仲間はその名のとおり一本の茎に一輪の花をつけるのが特徴です。で、ニリンソウは通常は2つの花をつけるのですねというと、これが必ずしも2つでなく 1 つだったり、3 つだったり、時には4つでるのもあったりします。さらに困ったことにイチリンソウ、サンリンソウという種もあり、それらもまた 1 輪や3輪とはかぎりません。イチリンソウは北海道には分布しませんが、サンリンソウはみられます。また葉だけみていると、やはり白い花をつけるキクザキイチゲとも似ています。イチゲの仲間は個体変異も多いので、よけいやっかいです。
さらに別の属ですが、猛毒のエゾトリカブトの若葉とも似ています。キンポウゲ科の植物は多くが有毒ですが、ニリンソウは例外的に毒がなく、別名フクベラとして北海道や東北では人気のある山菜で、毎年のようにトリカブトとの間違いがあり、死亡事故も発生しています。可憐な花ですし、無理して食べなくてもよいかと思いますが、自分の身を守るためにも、今日は、ルーペを片手に観察してみてください。

【ニリンソウ】　キンポウゲ科　イチリンソウ属　　別名：フクベラ

　イチゲもそうですが、根出葉という地面から直接出て花を持たな茎と花をもつ茎とで葉の形がかわります。ニリンソウの根出葉は長い茎の先に3つに分かれた葉がでますが、うち2つが大きく切れこんで、一見5枚のギザギザの葉がでているようにみえます。これに対し、花茎の葉(托葉)は3枚が輪生します。この葉は茎から直接でて、葉柄をもたないのが、サンリンソウとの違いになります。また葉には、よくみると白い斑があり、これもサンリンソウとの違いです。花は通常2本ですが、ひとつは遅れてでますので、一本にみえることもあります。今日も開花した花とまだつぼみの花が観察できると思います。1輪のニリンンソウ、3 輪のニリンソウもあるのは先にのべたとおりです。花は白ですが、すこしピンクがかったのもみられます、また花全体が緑のミドリニリンソウという珍しい品種もあります。花弁にみえるのは萼で、5～7弁と一定していませんので、数えてみてください。　花言葉は2輪寄り添って咲くことから、「友情、協力」、演歌の川中美幸さんの 1998 年のヒット曲 「二輪草」 には 《ふたりは二輪草・・、少しおくれて咲く花をいとおしくおもってくれま

すか》と、ちゃんと自然観察のとおりの歌詞になっています。

【サンリンソウ】　　キンポウゲ科　イチリンソウ属

ニリンソウとの違いは葉に短い茎があること、白い斑はないことで葉の切れこみもやや強い感じです。花は3輪が基本ですが、こちらも1～4 輪といろいろです。白い花はやはり萼片で、ニリンソウと違って5弁が多いようです。ニリンソウより稀で、私はまだ現物をみたことはありません。

【イチリンソウ】　　キンポウゲ科　イチリンソウ属

ニリンソウ、サンリンソウと違って花が 5cm近くと大きいこと、植物丈も 20～30cm と大きいです。葉は同じ 3 出複葉ですが、細かく切れこんで、 キクザキイチゲに近い感じです。本州、四国、九州に分布し、北海道にはないとされています。

【キクザキイチゲ】 キンポウゲ科　イチリンソウ属

イチゲの名の由来の通り、ひとつの花茎に一輪の花をつけます。「イチゲ」 も多くの種類がありますが、コレは花がひとつなのが種の定義です。 花は直径 4cmほどとニリンソウよりはるかに大きく、細長い花弁(これも萼片ですが)が 8～12 枚と多く、イチリンソウともあきらかに異なります。花の色は白が基本ですが、青やピンクがかったものなど変異が多いです。江部乙公園でも青花がみられます。 葉は細かく切れこんで、イチリンソウと似ています。キクザギの名前は菊のように花びらが多いことからついてますが、 私は野菜のシュンギクのような葉のほうが菊に似ていると思います。

【エゾトリカブト】 キンポウゲ科　トリカブト属

言わずと知れた猛毒の植物。70cm～2m近くなり夏から秋に青い烏帽子のような美しい花を咲かせ、これをみると全く別の植物ですが、春の若芽の時は 、同じキンポウゲ科ということもあって、ニリンソウなどと似ています。しかも同じような場所に生えているので、ニリンソウを山菜として採取して、混ざっていて、中毒したという例もあります。 トリカブトは葉の切れこみが多いこと、成長すると茎が伸びて立ち上がってくることが違いですが、ニリンソウと間違えて中毒しないためには決定的な違いである白い花やつぼみがあるものだけをとるのが一番の安全策です。

（写真・文： 磯）　　イチリンソウ、サンリンソウ、エゾトリカブトの写真はネットから借用